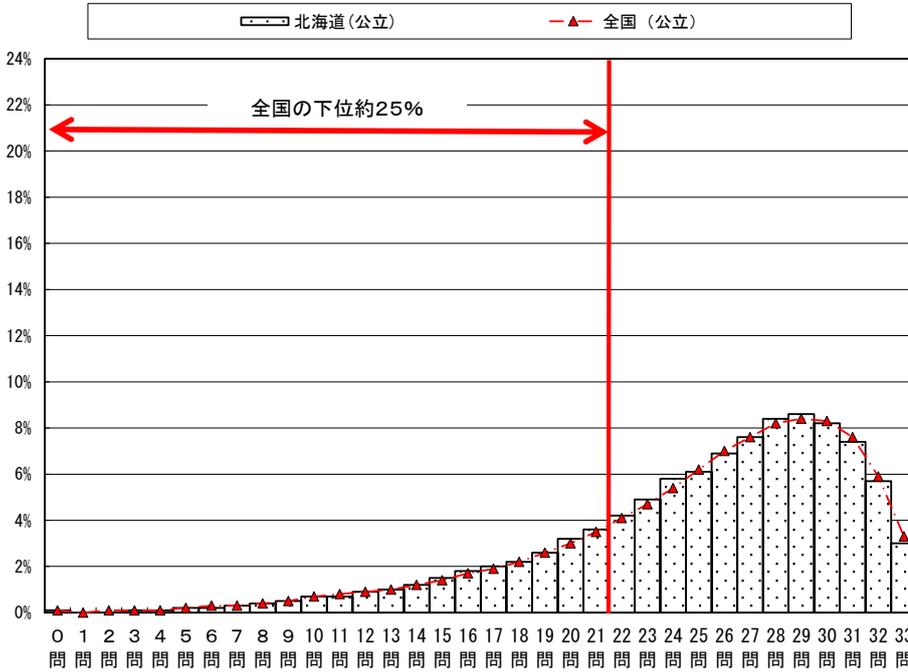


■ 中学校国語A

【概要】

- 平均正答率は、75.8%
- 全国の平均正答率との差は、0.0ポイントで、平成26年度と同じ
- 〔参考〕平成24年度小学校国語Aの全国の平均正答率との差は-4.2ポイント

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	40,966	25.0 / 33	75.8	26.0	5.8
全国(公立)	1,016,451	25.0 / 33	75.8	26.0	6.0

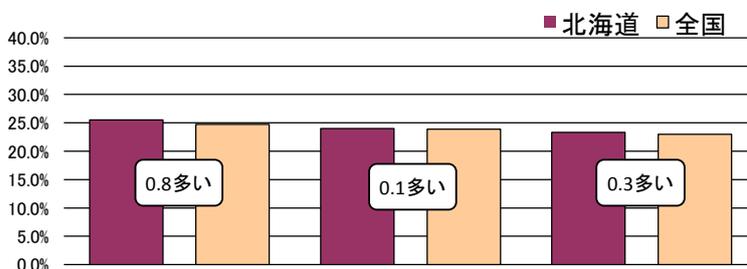


● 全国の下位約25%は、21問以下の正答数（正答率は63.6%以下）。

正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問(0.0%)	0.1	0.1
1問(3.0%)	0.0	0.0
2問(6.1%)	0.0	0.1
3問(9.1%)	0.1	0.1
4問(12.1%)	0.1	0.1
5問(15.2%)	0.2	0.2
6問(18.2%)	0.2	0.3
7問(21.2%)	0.3	0.3
8問(24.2%)	0.4	0.4
9問(27.3%)	0.5	0.5
10問(30.3%)	0.7	0.7
11問(33.3%)	0.7	0.8
12問(36.4%)	0.9	0.9
13問(39.4%)	1.0	1.0
14問(42.4%)	1.2	1.2
15問(45.5%)	1.5	1.4
16問(48.5%)	1.8	1.7
17問(51.5%)	2.0	1.9
18問(54.5%)	2.2	2.2
19問(57.6%)	2.6	2.6
20問(60.6%)	3.2	3.0
21問(63.6%)	3.6	3.5
22問(66.7%)	4.2	4.1
23問(69.7%)	4.9	4.7
24問(72.7%)	5.8	5.4
25問(75.8%)	6.1	6.2
26問(78.8%)	6.9	7.0
27問(81.8%)	7.6	7.6
28問(84.8%)	8.4	8.2
29問(87.9%)	8.6	8.4
30問(90.9%)	8.2	8.3
31問(93.9%)	7.4	7.6
32問(97.0%)	5.7	5.9
33問(100.0%)	3.0	3.3

21問以下の割合	23.3	23.0
----------	------	------

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

	H25		H26		H27	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	25.5%	24.7%	24.0%	23.9%	23.3%	23.0%
正答数	32問中21問以下		32問中22問以下		33問中21問以下	
全国との差	0.8多い		0.1多い		0.3多い	

-0.7

+0.2

〔参考〕

平成24年度小学校国語A

全道 全国

34.0% 24.9%

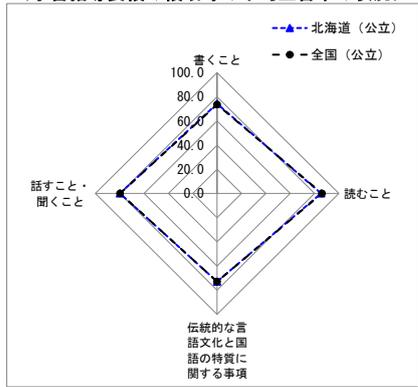
全国との差 9.1多い

設問別調査結果 [中学校・国語A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	606	9,689		40,966	1,016,451
分類	区分		対象設問数（問）	平均正答率（%）	
	全体			北海道（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		4	79.8	79.7
	書くこと		5	74.3	73.6
	読むこと		5	85.4	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		19	72.9	72.9
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		4	79.8	79.7
	書く能力		5	74.3	73.6
	読む能力		5	85.4	86.1
問題形式	言語についての知識・理解・技能		19	72.9	72.9
	選択式		23	75.1	75.5
	短答式		10	77.4	76.7
	記述式		0		

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1一	スピーチの途中で聞き手の反応を見て、とった対応として適切なものを選択する	相手の反応を踏まえて話す	1イ					○			○		93.2	93.0	0.1	0.1
1二	「成否」という言葉を、聞いて分かりやすい表現に直す	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	1ウ					○			○		65.3	65.0	12.6	12.0
2一	意見文に対して出された指摘の理由として適切なものを選択する	意見を支える根拠の明確さについて助言する		1オ				○			○		79.4	79.8	0.2	0.2
2二	意見文を直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く		1エ				○			○		84.2	83.6	0.1	0.2
3一	用いられている表現の工夫として適切なものを選択する	表現の技法について理解する				1(1)イ(オ)			○	○			62.5	58.3	0.4	0.4
3二	一人も返事をしたものがなかった理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ				○		○		88.2	88.7	0.2	0.2
3三	嘉助の言動から読み取れる様子として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2イ				○		○		89.3	89.8	0.3	0.3
4一	棒グラフの[]部の変化の内容を適切に書く	伝えたい事実を明確に書く		1ウ					○			○	66.5	67.6	4.7	4.2
5一	「なぜ、排水管はS字形になっているのか。」という問いに対する答えとして適切なものを選択する	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる			2オ				○		○		93.1	93.6	0.2	0.2
6一	「あす」と「あした」という言葉の意味の変化を整理した表に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて要旨を捉える			1イ				○		○		70.0	71.3	0.3	0.3
6二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	表現の特徴を捉える			1エ				○		○		86.6	87.1	0.4	0.4
7一	二つの回答案の構成の違いを説明したものとして適切なものを選択する	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える		2イ					○				71.8	70.6	0.5	0.7
7二	要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ					○			○	69.7	66.4	8.2	8.6
8一	インタビューをする際の質問の意図として適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら聞き取る		1エ					○			○	84.5	84.6	0.5	0.6
8二	意図に合った質問として適切なものを選択する			1エ					○			○	76.4	76.1	0.6	0.7

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
9-1	漢字を書く(ピョウソク五メートルの風が吹く)	文脈に即して漢字を正しく書く				2(1)ウ(イ)						○	○		88.8	88.5	1.9	2.2
9-2	漢字を書く(地図のシュクシャクを調べる)					2(1)ウ(イ)						○	○		73.5	72.1	9.5	10.1
9-3	漢字を書く(アマったお金を貯金する)					2(1)ウ(イ)						○	○		67.4	70.9	18.6	15.9
9-1	漢字を読む(詳細に述べる)	文脈に即して漢字を正しく読む				2(1)ウ(ア)						○	○		80.3	78.2	4.3	5.1
9-2	漢字を読む(シャツの袖をまくる)					2(1)ウ(ア)						○	○		94.0	94.1	0.8	1.2
9-3	漢字を読む(学校のことが新聞に載る)					2(1)ウ(ア)						○	○		97.7	97.2	0.9	1.3
9-3ア	適切な語句を選択する(将来は、気象予報士になりたい)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う				2(1)イ(イ)						○	○		97.8	97.6	0.4	0.5
9-3イ	適切な語句を選択する(彼がこの討論の口火を切った)					1(1)イ(ウ)						○	○		57.5	55.5	0.7	0.9
9-3ウ	適切な敬語を選択する(私が先生のお宅に参ります)					2(1)イ(ア)						○	○		82.8	84.1	0.6	0.7
9-3エ	適切な語句を選択する(彼女は、学級の壁の下の力持ちと言える存在だ)					1(1)イ(ウ)						○	○		66.2	70.8	0.7	0.8
9-3オ	適切な語句を選択する(たなびく雲の間から、春の光がもれている)					1(1)イ(ウ)						○	○		48.7	49.0	0.6	0.7
9-3カ	適切な語句を選択する(新聞を読む習慣を身に付ける)					2(1)イ(イ)						○	○		88.3	86.9	0.8	0.9
9-3ク	適切な語句を選択する(新聞を読む習慣を身に付ける)					2(1)イ(イ)						○	○		88.3	86.9	0.8	0.9
9-4①	「青い」と「青さ」の品詞として適切なものを選択する	単語の類別について理解する				1(1)イ(エ)						○	○		58.8	62.3	0.9	0.9
9-4②	適切なものを選択する					1(1)イ(エ)						○	○		32.7	33.7	1.0	1.1
9-5	運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する	毛筆を用いて、楷書で文字を書く				1(2)ア						○	○		84.4	85.9	0.8	0.8
9-6	手紙の後付けの直し方とその理由として適切なものを選択する	手紙の書き方を理解して書く				1(2)ア						○	○		56.4	58.2	1.2	1.2
9-7-1	漫画の言葉に対応する部分として適切なものを古典の文章の中から選択する	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやもの見方を想像する				2(1)ア(イ)						○	○		75.4	75.3	1.4	1.4
9-7-2	古典の作品名を漢字で書く	代表的な古典の作品に関心をもつ				1(1)ア(イ)						○	○		71.1	66.7	8.7	9.9

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	14/32問	17/32問	16/33問
無解答率が全国以下の設問数	28/32問	28/32問	30/33問
無解答率が5%以上の設問数	5/32問	8/32問	5/33問

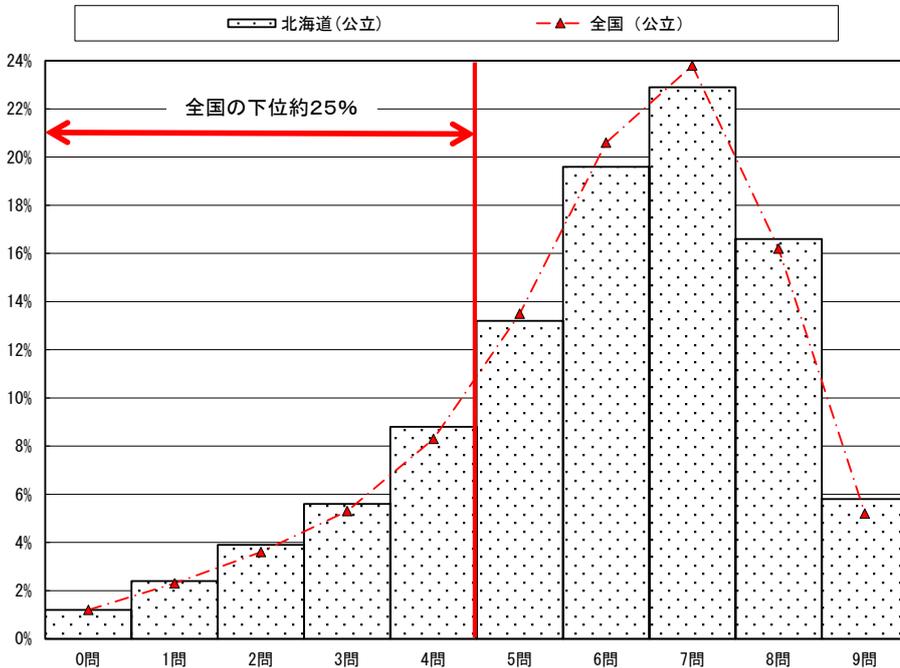
■ 中学校国語B

【概要】

- 平均正答率は、65.7%
- 全国の平均正答率との差は、-1.1ポイント（平成26年度）から-0.1ポイントに縮まった
〔参考〕平成24年度小学校国語Bの全国の平均正答率との差は-4.5ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	40,962	5.9 / 9	65.7	6.0	2.0
全国（公立）	1,016,575	5.9 / 9	65.8	6.0	2.0

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	1.2	1.2
1問（11.1%）	2.4	2.3
2問（22.2%）	3.9	3.6
3問（33.3%）	5.6	5.3
4問（44.4%）	8.8	8.3
5問（55.6%）	13.2	13.5
6問（66.7%）	19.6	20.6
7問（77.8%）	22.9	23.8
8問（88.9%）	16.6	16.2
9問（100.0%）	5.8	5.2



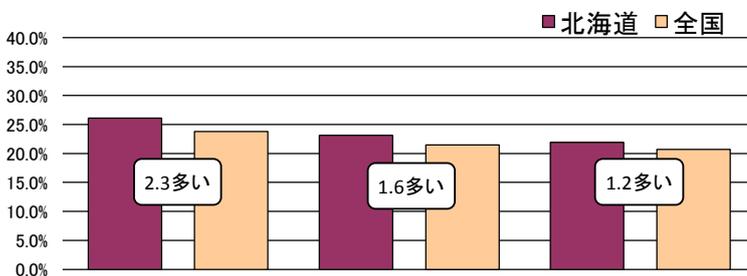
4問以下の割合	21.9	20.7
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、4問以下の正答数（正答率は44.4%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



	H25		H26		H27	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	26.1%	23.8%	23.1%	21.5%	21.9%	20.7%
正答数	9問中4問以下		9問中2問以下		9問中4問以下	
全国との差	2.3多い		1.6多い		1.2多い	

-0.7 -0.4

〔参考〕

平成24年度小学校国語B

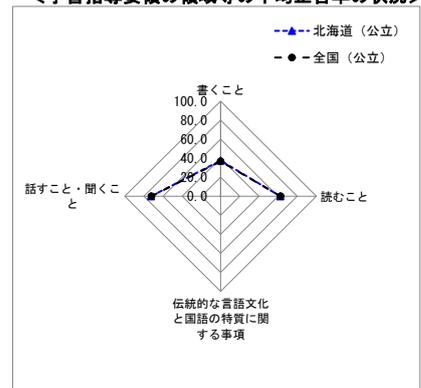
全道	全国
34.0%	27.3%
全国との差 6.7多い	

設問別調査結果 [中学校・国語B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道（公立）	全国（公立）	対象生徒数	北海道（公立）	全国（公立）
	606	9,689		40,962	1,016,575
分類	区分	対象設問数（問）	平均正答率（%）		
			北海道（公立）	全国（公立）	
全体					
9					
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.6	72.2	
	書くこと	3	37.5	36.7	
	読むこと	6	62.3	62.6	
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0			
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	37.5	36.7	
	話す・聞く能力	3	72.6	72.2	
	書く能力	3	37.5	36.7	
	読む能力	6	62.3	62.6	
	言語についての知識・理解・技能	0			
問題形式	選択式	6	79.8	80.3	
	短答式	0			
	記述式	3	37.5	36.7	

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	北海道（公立）	全国（公立）	北海道（公立）
1一	ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択する	状況に応じて、資料を活用して話す	2ウ				○			○			74.2	73.2	0.2	0.2
1二	フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する	効果的な資料を作成し、活用して話す	2ウ				○			○			87.7	87.3	0.3	0.4
1三	演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	2ウ	1ウ			○	○			○		55.8	56.2	3.4	2.8
2一	ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する	目的に応じて文章を要約する			1イ				○		○		80.9	82.6	0.3	0.3
2二	雑誌の記事に書かれていることとして適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える			1イ				○		○		66.5	67.8	0.3	0.3
2三	資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていききたいか、自分の考えを書く	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く		2ウ	2オ		○	○			○		23.4	23.0	5.2	3.7
3一	「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択する	表現の工夫について自分の考えをもつ			1エ				○		○		88.1	88.6	0.5	0.5
3二	「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する				2ウ				○		○		81.4	82.6	0.6	0.7
3三	文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く		1ウ	2ウ		○	○			○		33.3	31.1	15.7	11.2

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	0/9問	2/9問	4/9問
無解答率が全国以下の設問数	5/9問	6/9問	6/9問
無解答率が5%以上の設問数	2/9問	2/9問	2/9問

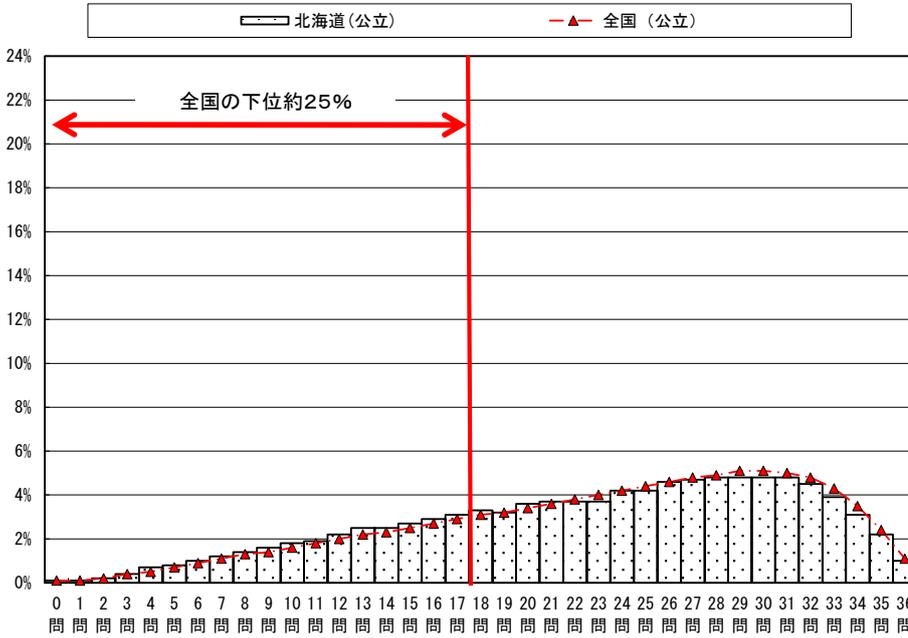
■ 中学校数学A

【概要】

- 平均正答率は、63.0%
- 全国の平均正答率との差は、-1.4ポイントで、平成26年度と同じ
- 〔参考〕平成24年度小学校算数Aの全国の平均正答率との差は-4.6ポイント

	生徒数(人)	平均正答数(問)	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
北海道(公立)	40,965	22.7 / 36	63.0	24.0	8.1
全国(公立)	1,016,737	23.2 / 36	64.4	24.0	8.0

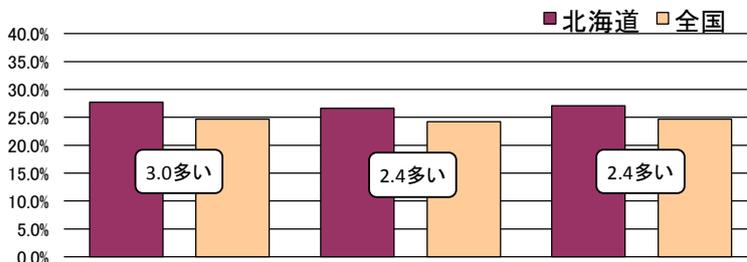
正答数 (生徒の割合(%))		
正答数(正答率)	北海道	全国
0問(0.0%)	0.1	0.1
1問(2.8%)	0.1	0.1
2問(5.6%)	0.2	0.2
3問(8.3%)	0.4	0.4
4問(11.1%)	0.7	0.5
5問(13.9%)	0.8	0.7
6問(16.7%)	1.0	0.9
7問(19.4%)	1.2	1.1
8問(22.2%)	1.4	1.3
9問(25.0%)	1.6	1.4
10問(27.8%)	1.8	1.6
11問(30.6%)	1.9	1.8
12問(33.3%)	2.2	2.0
13問(36.1%)	2.5	2.2
14問(38.9%)	2.5	2.3
15問(41.7%)	2.7	2.5
16問(44.4%)	2.9	2.7
17問(47.2%)	3.1	2.9
18問(50.0%)	3.3	3.1
19問(52.8%)	3.2	3.2
20問(55.6%)	3.6	3.4
21問(58.3%)	3.7	3.6
22問(61.1%)	3.7	3.8
23問(63.9%)	3.7	4.0
24問(66.7%)	4.2	4.2
25問(69.4%)	4.2	4.4
26問(72.2%)	4.6	4.6
27問(75.0%)	4.7	4.8
28問(77.8%)	4.8	4.9
29問(80.6%)	4.8	5.1
30問(83.3%)	4.8	5.1
31問(86.1%)	4.8	5.0
32問(88.9%)	4.5	4.8
33問(91.7%)	3.9	4.3
34問(94.4%)	3.1	3.5
35問(97.2%)	2.2	2.4
36問(100.0%)	1.0	1.1



● 全国の下位約25%は、17問以下の正答数(正答率は47.2%以下)。

17問以下の割合	27.1	24.7
----------	------	------

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



※全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

	H25		H26		H27	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	27.7%	24.7%	26.6%	24.2%	27.1%	24.7%
正答数	36問中17問以下		36問中18問以下		36問中17問以下	
全国との差	3.0多い		2.4多い		2.4多い	

-0.6

同じ

〔参考〕

平成24年度小学校算数A

全道 全国

30.4% 22.7%

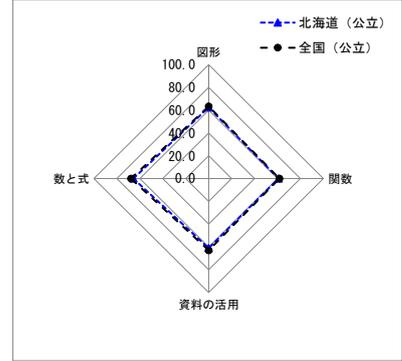
全国との差 7.7多い

設問別調査結果 [中学校・数学A：主として知識]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	606	9,687		40,965	1,016,737
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体		36	63.0	64.4	
学習指導要領の領域	数と式	12	65.6	67.7	
	図形	12	62.5	63.4	
	関数	8	60.9	61.7	
	資料の活用	4	61.1	63.0	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	0			
	数学的な技能	17	63.2	65.0	
	数量や図形などについての知識・理解	19	62.9	63.9	
問題形式	選択式	19	63.5	64.6	
	短答式	17	62.4	64.2	
	記述式	0			

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1(1)	12:9と等しい比を選ぶ	比の意味を理解している	小6数量(1)												92.1	93.6	0.1	0.1
1(2)	$12 - 2 \times (-6)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	1(1)ウ												82.7	83.7	1.2	1.2
1(3)	a が正の数のとき、 $a \times (-2)$ の計算の結果について、正しい記述を選ぶ	正の数と負の数の乗法について理解している	1(1)イ												74.0	75.7	0.3	0.3
1(4)	ある日の最低気温を基準にして、その前日の最低気温との差から、前日の最低気温を求める	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	1(1)ア,エ												75.4	75.4	1.6	1.3
2(1)	$5x - x$ を計算する	一次式の減法の計算ができる	1(2)ウ												81.1	85.3	1.8	1.6
2(2)	赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $3/5$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す	数量の関係を文字式に表すことができる	1(2)エ												19.6	22.2	10.7	9.0
2(3)	等式 $2x - y = 5$ を y について解く	等式を目的に応じて変形することができる	2(1)ウ												60.1	64.2	8.2	6.8
2(4)	連続する3つの整数のうち最も小さい整数を n とするとき、それらの和が中央の整数の3倍になることを、 n を用いた式で表す	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	2(1)イ												53.3	57.0	9.3	7.9
3(1)	一元一次方程式 $7x = 5x + 4$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	1(3)イ												78.8	79.4	0.6	0.5
3(2)	一元一次方程式 $1.2x - 6 = 0.5x + 1$ を解く	小数を含む一元一次方程式を解くことができる	1(3)ウ												72.2	73.8	7.7	7.1
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶ	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	2(2)ウ												43.7	44.9	1.0	0.9
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 4x + 2y = 5 \\ x + y = 2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2)ウ												54.4	56.8	10.9	10.4
4(1)	垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ	垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	1(1)ア												57.8	59.1	1.2	1.0
4(2)	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に4cm平行移動した図形をかく	平行移動した図形をかくことができる	1(1)イ												54.3	54.5	2.2	2.2
5(1)	直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く	空間における直線と平面の垂直について理解している	1(2)ア												46.3	47.4	2.3	1.9
5(2)	直角三角形の斜辺を軸として回転させてできる立体を選ぶ	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している	1(2)イ												83.5	83.4	0.4	0.3
5(3)	与えられた投影図から立体を読み取り、その立体を選ぶ	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	1(2)イ												82.1	83.8	0.4	0.4
5(4)	与えられた式で体積が求められる立体を全て選ぶ	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	1(2)ウ												54.1	56.4	1.7	1.4
6(1)	同位角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	同位角の意味を理解している	2(1)ア												80.2	80.3	0.5	0.4
6(2)	四角形を五角形に変えたときの、内角の和の変化について正しい記述を選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	2(1)イ												67.8	69.7	1.0	0.9

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		正答率(%)		無解答率(%)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)
7(1)	ひし形ABCDにおいて、 $AC \perp BD$ が表す性質を選ぶ	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる		2(2)ウ					○		○		74.0	76.1	0.5	0.5
7(2)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している		2(2)ア						○	○		76.3	76.1	7.0	6.8
7(3)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している		2(2)ウ					○	○		47.0	48.1	1.1	0.9	
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性と意味を理解している		2(1)ア (2)イ						○	○		26.2	25.8	1.3	1.2
9	y が x の関数でない事象を選ぶ	関数の意味を理解している		1(1)ア						○	○		80.5	81.5	1.0	0.9
10(1)	反比例のグラフを選ぶ	反比例のグラフが x 軸、 y 軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している		1(1)エ						○	○		60.7	61.7	1.3	1.2
10(2)	比例 $y=2x$ のグラフ上の点Aの x 座標が3のときの y 座標を求める	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点の x 座標を基に y 座標を求めることができる		1(1)ウ、エ				○			○		62.1	64.9	11.2	9.8
10(3)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる		1(1)エ				○			○		48.5	49.3	19.1	17.2
11	一次関数の表から、 x と y の関係を表した式を選ぶ	一次関数の表から、 x と y の関係を式で表すことができる		2(1)イ				○		○			63.9	64.7	1.4	1.4
12(1)	時間と道のりの関係を表すグラフから、速さが最も速い区間を選ぶ	時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している		2(1)イ					○	○			50.1	49.9	1.4	1.3
12(2)	時間と道のりの関係を表すグラフを基に、出発してから15分後にいる地点までの家からの道のりを求める	時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができる		2(1)イ				○			○		83.6	83.8	9.2	8.5
13	二元一次方程式 $x+y=3$ の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している		2(1)ウ					○	○			37.8	37.9	2.4	2.3
14(1)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる		1(1)ア				○			○		44.4	46.0	10.3	9.7
14(2)	度数分布表について、ある階級の度数を求める	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる		1(1)ア				○			○		73.5	75.9	11.0	9.4
15(1)	セットメニューの選び方の総数を求める	起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる		小6数量(5)				○			○		73.7	74.8	6.0	5.2
15(2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している		2(1)ア					○	○			52.6	55.4	2.4	2.1

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	7/36問	6/36問	5/36問
無解答率が全国以下の設問数	21/36問	20/36問	7/36問
無解答率が5%以上の設問数	13/36問	11/36問	12/36問

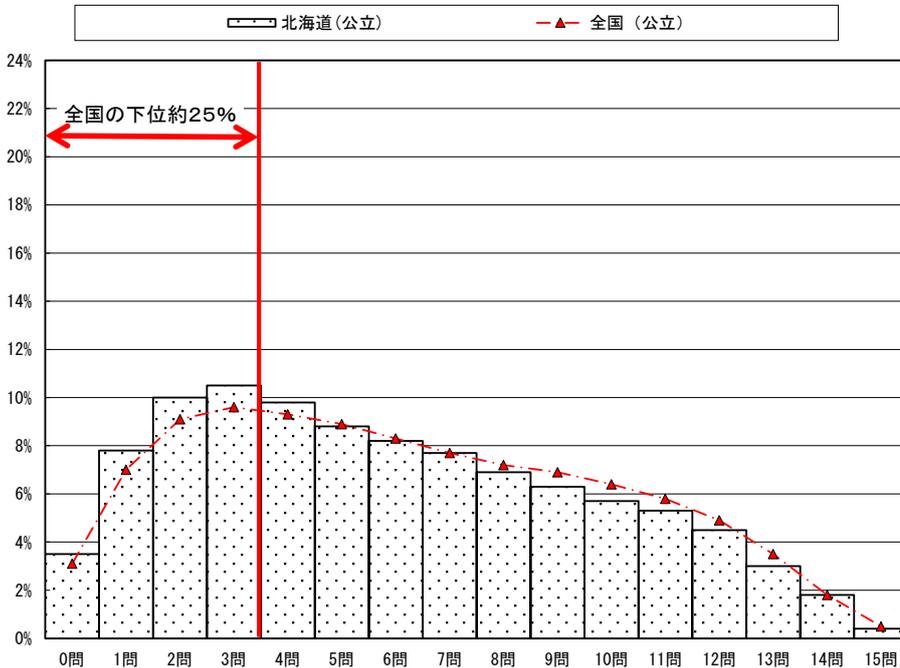
■ 中学校数学B

【概要】

- 平均正答率は、39.7%
- 全国の平均正答率との差は、-0.4ポイント（平成26年度）から-1.9ポイントに広がった
〔参考〕平成24年度小学校算数Bの全国の平均正答率との差は-4.6ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	40,942	6.0 / 15	39.7	5.0	3.7
全国（公立）	1,016,548	6.2 / 15	41.6	6.0	3.8

正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	3.5	3.1
1問（6.7%）	7.8	7.0
2問（13.3%）	10.0	9.1
3問（20.0%）	10.5	9.6
4問（26.7%）	9.8	9.3
5問（33.3%）	8.8	8.9
6問（40.0%）	8.2	8.3
7問（46.7%）	7.7	7.7
8問（53.3%）	6.9	7.2
9問（60.0%）	6.3	6.9
10問（66.7%）	5.7	6.4
11問（73.3%）	5.3	5.8
12問（80.0%）	4.5	4.9
13問（86.7%）	3.0	3.5
14問（93.3%）	1.8	1.8
15問（100.0%）	0.4	0.5



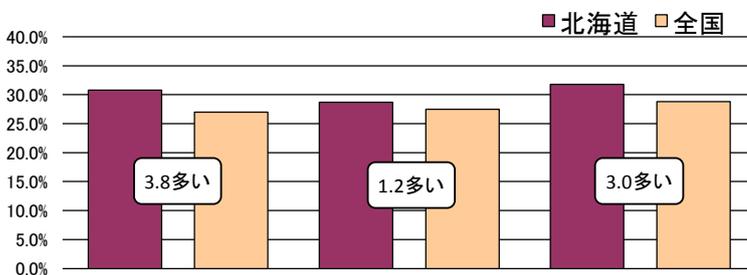
3問以下の割合	31.8	28.8
---------	------	------

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

● 全国の下位約25%は、3問以下の正答数（正答率は20%以下）。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



	H25		H26		H27	
	全道	全国	全道	全国	全道	全国
割合	30.8%	27.0%	28.7%	27.5%	31.8%	28.8%
正答数	16問中3問以下		15問中6問以下		15問中3問以下	
全国との差	3.8多い		1.2多い		3.0多い	

-2.6 +1.8

〔参考〕

平成24年度小学校算数B

全道 全国

31.6% 25.0%

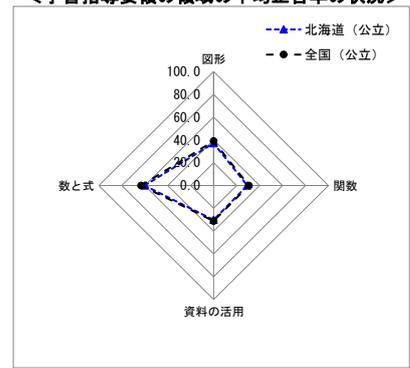
全国との差 6.6多い

設問別調査結果 [中学校・数学B：主として活用]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	606	9,687		40,942	1,016,548
分類	区分		対象設問数(問)	平均正答率(%)	
	全体			北海道(公立)	全国(公立)
学習指導要領の領域	数と式		4	60.2	63.2
	図形		4	37.1	39.0
	関数		5	29.3	30.7
	資料の活用		2	30.2	31.2
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		13	40.7	42.8
	数学的な技能		2	33.2	34.2
	数量や図形などについての知識・理解		0		
問題形式	選択式		4	47.5	47.9
	短答式		4	45.7	47.4
	記述式		7	31.9	34.8

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



設問別集計結果

*一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	
1(1)	映写距離と映写画面の高さの関係を式で表す	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			1(1) エ、オ										26.9	29.3	23.3	21.1
1(2)	映写画面がスクリーンに収まり、できるだけ大きく映し出すことができる映写距離を選ぶ	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる			1(1) エ、オ										35.8	35.1	0.9	0.9
1(3)	映像の明るさを2倍にするための映写画面の面積の変え方を選び、その理由を説明する	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) エ、オ										9.1	11.7	7.9	5.6
2(1)	連続する3つの整数が19、20、21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) イ、ウ												75.4	78.8	7.2	6.0
2(2)	連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1) イ、ウ												39.9	43.1	27.9	24.0
2(3)	連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	2(1) イ、ウ												60.5	63.8	23.2	19.4
3(1)	ポップアップカードを90°に開いたとき、四角形EFGHが正方形になる場合のEFの長さを求める	平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる		1(2) イ 2(2) ウ											41.0	42.6	10.3	8.7
3(2)	四角形EFGHがいつでも平行四辺形になるように点Fの位置を決める方法を、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる		1(2) イ 2(2) ウ											19.2	21.2	54.7	48.2
4(1)	証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができる	2(2) ア、ウ												41.7	42.5	1.2	1.2
4(2)	正方形ABCDを平行四辺形ABCDに変えても、AE=CFとなることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	2(2) イ、ウ												46.3	49.6	22.6	18.6
5(1)	1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答える	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる			小5 数量 (3) 1(1) イ										39.4	39.1	29.3	26.8
5(2)	2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ										20.9	23.3	34.0	29.7
5(3)	記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計するとき、表彰する学級の決め方として正しい記述を選ぶ	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	2(1) イ												65.1	67.3	1.5	1.5
6(1)	中心角の大きさxと半径の長さyの間にある関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる			2(1) イ										47.5	46.5	1.4	1.3
6(2)	底面になる円の半径の長さが8cmのとき、表や式から、側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求める方法を説明する	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる			2(1) イ										27.1	30.8	21.5	17.1

* 評価の観点は、数量や図形に関する技能(小学校)に対応させている。

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H25	H26	H27
平均正答率が全国以上の設問数	2/16問	7/15問	3/15問
無解答率が全国以下の設問数	4/16問	4/15問	3/15問
無解答率が5%以上の設問数	12/16問	12/15問	11/15問

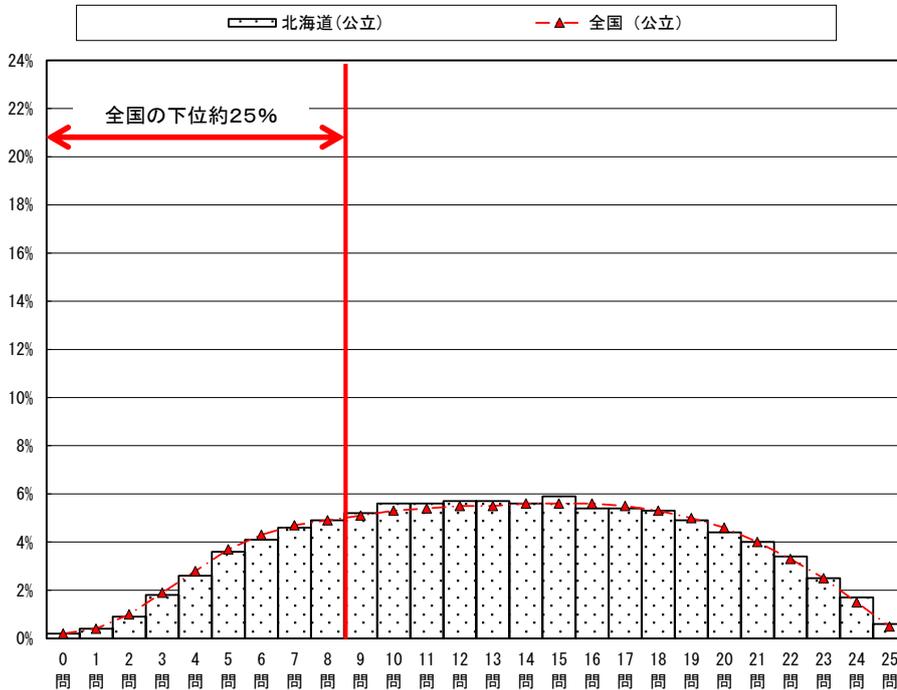
■ 中学校理科

【概要】

- 平均正答率は、53.3%
- 全国の平均正答率との差は、-0.7ポイント（平成24年度）から+0.3ポイントに縮まった
〔参考〕平成24年度小学校理科の全国の平均正答率との差は-2.3ポイント

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
北海道（公立）	40,952	13.3 / 25	53.3	13.0	5.7
全国（公立）	1,016,572	13.3 / 25	53.0	13.0	5.7

正答数（生徒の割合（%））		
正答数（正答率）	北海道	全国
0問（0.0%）	0.2	0.2
1問（4.0%）	0.4	0.4
2問（8.0%）	0.9	1.0
3問（12.0%）	1.8	1.9
4問（16.0%）	2.6	2.8
5問（20.0%）	3.6	3.7
6問（24.0%）	4.1	4.3
7問（28.0%）	4.6	4.7
8問（32.0%）	4.9	4.9
9問（36.0%）	5.2	5.1
10問（40.0%）	5.6	5.3
11問（44.0%）	5.6	5.4
12問（48.0%）	5.7	5.5
13問（52.0%）	5.7	5.5
14問（56.0%）	5.6	5.6
15問（60.0%）	5.9	5.6
16問（64.0%）	5.4	5.6
17問（68.0%）	5.4	5.5
18問（72.0%）	5.3	5.3
19問（76.0%）	4.9	5.0
20問（80.0%）	4.4	4.6
21問（84.0%）	4.0	4.0
22問（88.0%）	3.4	3.3
23問（92.0%）	2.5	2.5
24問（96.0%）	1.7	1.5
25問（100.0%）	0.6	0.5
8問以下の割合	23.1	23.9

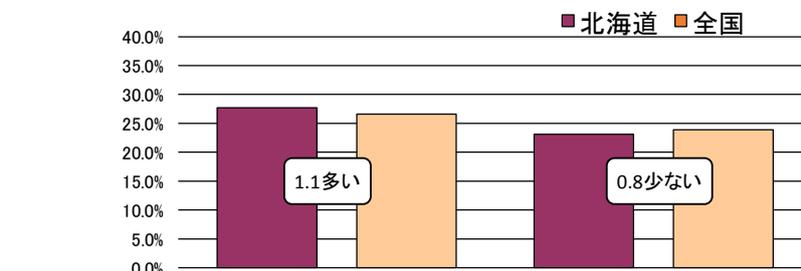


● 全国の下位約25%は、8問以下の正答数（正答率は32%以下）。

※ 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる全道の児童生徒の割合を比較した。

※ 児童生徒の割合は、小数第2位以下を四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



	H24		H27	
	全道	全国	全道	全国
割合	27.7%	26.6%	23.1%	23.9%
正答数	26問中9問以下		25問中8問以下	
全国との差	1.1多い		0.8少ない	

-1.9

〔参考〕

平成24年度小学校理科

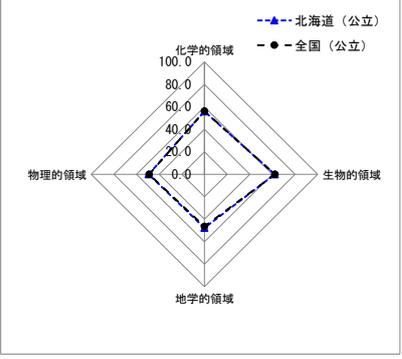
全道	全国
29.1%	25.5%
全国との差	3.6多い

設問別調査結果 [中学校・理科]

集計結果

対象学校数	北海道(公立)	全国(公立)	対象生徒数	北海道(公立)	全国(公立)
	606	9,689		40,952	1,016,572
分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			北海道(公立)	全国(公立)	
全体		25	53.3	53.0	
枠組み	主として「知識」に関する問題	7	65.4	63.8	
	主として「活用」に関する問題	18	48.6	48.8	
学習指導要領の分野等	第1分野 物理的領域	7	49.3	48.9	
	化学的領域	7	55.9	56.2	
	第2分野 生物的領域	6	62.1	62.2	
	地学的領域	6	47.7	46.4	
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0			
	科学的な思考・表現	18	48.6	48.8	
	観察・実験の技能	2	47.1	46.8	
	自然事象についての知識・理解	5	72.7	70.6	
問題形式	選択式	16	53.3	53.1	
	短答式	4	63.1	61.6	
	記述式	5	45.4	45.8	

<学習指導要領の分野等の平均正答率の状況>



設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の分野等				評価の観点		問題形式			正答率(%)		無解答率(%)			
				第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域	第2分野 生物的領域	第2分野 地学的領域	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
1(1) 化学式	塩化ナトリウムの化学式を選ぶ	塩化ナトリウムを化学式で表すことができる	○							○	○		80.3	79.6	0.3	0.3		
1(1) 濃度	濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める	特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	○					○			○		44.6	45.0	19.4	17.6		
1(2)	同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる	○					○			○		32.2	32.6	0.3	0.3		
1(3)	水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する	二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる	○					○			○		54.5	53.0	18.3	18.8		
1(4)	炭酸水素ナトリウムを加熱したときの質量の変化のグラフから、温度と化学変化の記述として適切なものを選ぶ	グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる	○					○			○		72.7	73.6	0.4	0.4		
1(5)	ベーキングパウダーの原材料で、気体の発生に関係しているのが、炭酸水素ナトリウムであることを特定するための対照実験を選ぶ	炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定するための対照実験を計画することができる	○					○			○		49.9	51.7	0.7	0.8		
1(6)	他者の考えを検討して改善し、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱したときの化学変化の説明として最も適切なものを選ぶ	他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる	○					○			○		57.2	57.7	1.1	1.2		
2(1)	天気図から風力を読み取る	天気の記事から風力を読み取ることができる	○							○	○		81.2	77.9	7.8	9.0		
2(2)	天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ	天気の記事から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる	○					○			○		49.6	48.6	0.4	0.5		
2(3)	湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明し他者の考えを検討して、誤っているところを改善する	他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる	○					○			○		16.9	14.5	9.3	6.7		
2(4)	上空を飛行中の飛行機内での菓子袋の膨らみを検証する実験について、空気を抜く操作に対応する飛行機の状態を推論する	気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	○					○			○		62.8	62.2	0.4	0.5		
3(1)	13時から16時の四つの気象観測の記録から、最も高い湿度を選ぶ	露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる	○					○			○		37.7	36.5	0.6	0.6		
3(2)	上空と地上の気温差による降水量の違いを調べる装置として適切なものを選ぶ	一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる	○					○			○		38.0	39.0	0.8	0.8		
4(1)	実験の結果から、凸レンズによる実像ができるときの、像の位置や大きさについて適切な説明を選ぶ	凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる	○					○			○		41.5	43.7	0.5	0.6		
4(2)	ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ	他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる	○					○			○		50.8	50.3	1.0	1.1		
5(1)	抵抗に加わる電圧と流れる電流から、抵抗の大きさを計算して求める	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○							○	○		61.6	59.6	16.0	15.6		
5(2)	電磁石を動かさず、スイッチを入れたり切ったりすると、検流計の針が振れる理由を、「磁界」という言葉を使って説明する	技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる	○					○			○		54.3	56.8	33.2	30.7		
6(1)	音の波形を比較し、音の高さが高くなった根拠として、正しいものを選ぶ	日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	○					○			○		43.1	40.1	0.8	0.8		
6(2)	音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ	音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる	○					○			○		30.9	29.9	1.0	1.0		

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野		第2分野		自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	北海道(公立)	全国(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
					物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域											
7(1)	消化酵素によって、デンプンが最終的に分解された物質の名称を選ぶ	デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる	○				(3) イ(7)				○	○		75.3	72.2	0.8	0.9		
7(2)	キウイフルーツがゼラチンや寒天を分解する働きを説明した記述として適切なものを選ぶ	実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる		○			(3) イ(7)		○			○		76.0	76.4	1.0	1.1		
7(3)	キウイフルーツの上に置いたゼリーの崩れ方に違いが見られたという新たな疑問から、適切な課題を記述する	見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができる		○			(3) イ(7)		○			○		55.3	57.3	30.3	27.8		
8(1)	背骨のある動物の名称を答える	背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる	○				(3) ウ(7)				○	○		65.0	63.9	9.2	10.4		
8(2)	えらぶたの開閉回数の平均値を求める理由として適切なものを選ぶ	平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる		○			(3) イ(7)		○			○		54.8	55.7	1.3	1.4		
8(3)	課題に対して適切な(課題に正対した)考察になるよう修正する	他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる		○			(3) イ(7)		○			○		45.9	47.4	28.5	25.5		

※塗りつぶしは、全国以上の平均正答率及び全国以下の無解答率。太枠は5%以上の無解答率。

	H24	H27
平均正答率が全国以上の設問数	6/26問	13/25問
無解答率が全国以下の設問数	14/26問	19/25問
無解答率が5%以上の設問数	13/26問	9/25問

■ 過去の同一問題との比較

- 過去の全国学力・学習状況調査との同一問題（7問）について、全国平均以上の問題は2問。また、全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題は3問、差が広がった問題は2問。

	全国平均以上の問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が縮まった問題の数	全国平均を下回った問題のうち、差が広がった問題の数
小学校調査	1	2	0
中学校調査	1	1	2

※ 過去の調査とは、平成19～22、24～26年度の全国学力・学習状況調査を指す。
 なお、各調査の対象児童生徒や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

(小学校国語)

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
1－3	漢字を読む（承知）	91.2%	92.5%	平成20年度	84.3%	89.1%
		-1.3			-4.8	
1二3	漢字を書く（病院）	69.3%	74.9%	平成21年度	66.2%	76.1%
		-5.6			-9.9	

(小学校算数)

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
2(1)	28＋72を計算する （繰り上がりのある加法 「(2位数)+(2位数)」の計算をする）	98.2%	98.2%	平成19年度	97.7%	98.3%
		±0.0			-0.6	

(中学校国語)

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
9三イ	適切な語句を選択する （口火）	57.5%	55.5%	平成20年度	55.2%	54.7%
		+2.0			+0.5	
9三オ	適切な語句を選択する （たなびく）	48.7%	49.0%	平成24年度	44.9%	46.9%
		-0.3			-2.0	

(中学校数学)

問題		全道	全国	実施年度	全道	全国
		全道－全国			全道－全国	
4(1)	垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶ	57.8%	59.1%	平成20年度	51.9%	51.5%
		-1.3			+0.4	
15(2)	さいころを投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	52.6%	55.4%	平成19年度	50.0%	49.2%
		-2.8			+0.8	

(理科該当無し)